



大阪市教育委員会
教育長 多田 勝哉 様

2025 年 4 月 21 日

Democracy for Teachers and Children

～「君が代」調教やめて～（略称 D-TaC）

連絡先：共同世話人

「卒業証書授与式」使用にかかわる要請書

私たちは、「卒業証書授与式」使用をめぐる、昨年度、教育委員会と二度の協議をおこないました。今年 2 月 19 日に行った二度目の協議で、教育委員会は、「卒業式を『卒業証書授与式』と呼んでいる学校があるかどうかについて調査し、戦前の名称である『卒業証書授与式』は使うべきでないと指導してください」という私たちの要請に対して、「卒業式の名称について、文部科学省へ現在の認識を確認したが明確な答えは得られなかった。過去に『卒業証書授与式』という名称が使用されていたことは文献等により確認したが、現在『卒業証書授与式』が使用されている学校がある理由についてはわからない。」「文部科学省から名称を限定させるような通知は無いことから、教育委員会に名称を限定する権限はない」（2025 年 2 月 19 日協議議事録要旨）と回答しました。

その回答を受けて、私たちは、各学校に、直接、「卒業式の主役は卒業生です 『卒業証書授与式』のことは使わないでください」というメールを送って以下のように要請しました。

「この度のお願いは、卒業式のあり方を見直してほしいというものです。卒業式は、卒業生が、仲間と過ごした学校生活を振り返り、明日に向かって前に進む力を得る場、前に進む糧となるものであってほしいと願っています。卒業式の主役は、当然のことですが、卒業生であるべきです。ところが、この卒業式を『卒業証書授与式』と称する学校があります。『卒業証書授与式』という呼び方は、式の主体を国、学校、校長とするものであり、卒業生を主役とすべき卒業式の名称としてふさわしくありません。現在の公文書には『卒業式』しか記載がなく、『卒業証書授与式』は戦前の呼び方です。しかも、敗戦前には、すでに、『卒業式』に変更されていたので、戦前からの継続というわけでもありません。どう考えても根拠のない『卒業証書授与式』のことは使っている学校があれば、ただちに、『卒業式』に改めるべきです。」

3 月 14 日に中学校、3 月 18 日に小学校の卒業式が行われましたが、学校ホームページの卒業式報告記事を見ると、記事タイトルに「卒業証書授与式」のことは使っている学校が中学校で 129 校中 32 校、小学校で 282 校中 6 校ありました。私たちは、その学校に対して、「公文書にない『卒業証書授与式』ということばをあえて使っている理由」をメール、手紙等で問いましたが、回答のあった学校のすべてが「『慣例』に従っただけで『卒業証書授与式』を使用する特別な理由があるわけではない」というものでした。

昨年度の二度の協議で、教育委員会は、「教育委員会に名称を限定する権限はない」ことを根拠に、「卒業証書授与式」使用についての見解を明らかにしませんでした。今回、私たちが、「『卒業証書授与式』ということばをあえて使っている理由」を学校管理職に聞いた電話の中では、学校からの問い合わせに対して、教育委員会指導部から、「『卒業証書授与式』のことは使っても問題ない」「メールに返信しなくてもかまわない」と言われたなどの証言もありました。このような経過を踏まえて、改めて、以下を要請します。

【要請事項】

1. 学校が卒業式をどう呼んでいるかについて調査し、その結果を教えてください。
2. 卒業式を卒業証書授与式と呼ぶことについて、教育委員会の見解を明らかにしてください。